



New Library

第27号 2019.7

発行 新見公立大学附属図書館

編集 図書委員会 学生図書委員会

地域福祉学科 小林弘空 末弘咲紀 高山菜々子 栗原茉莉子

映画化・ドラマ化された小説

今回は、映画化・ドラマ化された本を紹介します。映像化された作品しか観ていない方はもちろん、原作を既に一度読んでいる方も、これを機に今一度読み返してみるのはいかがでしょうか？



アヒルと鴨のコインロッカー

著者：伊坂幸太郎
出版社：創元推理文庫
発行年：2006年

この小説は椎名という大学生の現在の物語と、琴美という女性の2年前の物語が同時に描かれる、カットバック式の小説なのですが、思いもしなかった衝撃のラストが待ち受けています。

爽快感を味わいたい人には特におすすめです。ぜひ読んでみてください！

2007年に映画化されました。

※図書館に映画DVDを所蔵しています。



真夜中のパン屋さんシリーズ（全6巻）

著者：大沼紀子
出版社：ポプラ文庫
発行年：2011～2017年

真夜中にだけ営業されるパン屋「ブランジェリークレバヤシ」。そこには悩みを抱えた人たちが訪れる。パンを通じて人とのつながりを感じたり、前を向くことができるよう、パン屋の3人が悩みを解決していく物語。店長の暮林と職人の弘基との関係性にも注目して読んでみてください。

2013年にテレビドラマ化されました。

☆学生選書コーナー☆



だれもが知っている小さな国
有川浩・作、村上勉・絵
講談社/2015

はち屋(養蜂家)の両親をもち、全国を転々とするヒコは、北海道でコロボックルという小人や、はち屋の子どものヒメと出会う。人の優しさに触れることができる、心温まるファンタジー。



ブラック
山田悠介/文芸社文庫/2015

この本は、短編集となっています。山田悠介さんというと、ホラー小説を書くことが多い小説家ですが、この本はホラーではありません。どのお話も現実味があり、話に深く共感をもつことができます。しかし、結末はほとんど悲しいものが多いです。少し悲しいお話を読みたい方は是非読んでみてください。



流星ワゴン
重松清/講談社文庫/2005

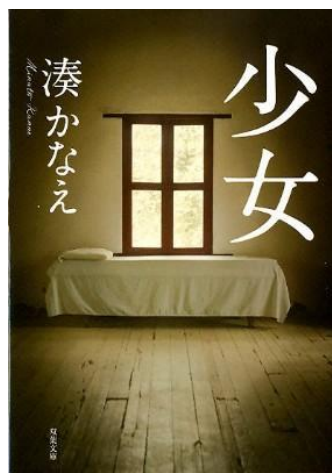
死んじゃってもいいか、なんて思っていた一雄の前にある父子が現れる。2人は5年前に事故死した親子だった。2人とともにワゴンに乗り、時空をこえて、自分の後悔と向き合う旅が始まる。家族とはなんなのか、親子とはなんかを考えさせられる本です。

2015年にテレビドラマ化されました。



「のび太」という生きかた
横山泰行/アスコム/2004

この本はアニメ「ドラえもん」に登場するのび太について富山大学の教授が書いたものです。普段私たちが見るダメなのび太を全く新しい視点で見えています。ドラえもんが好きという方、今何か悩みを抱えている方は是非読んでみてください。



少女
湊かなえ/双葉文庫/2012

高校2年生の由紀と敦子は転校生の紫織の話を聞いて、次第に人の死について興味をもつようになる。2人は人の死に触れるべく、夏休みを利用して、由紀は病院へボランティアに、敦子は老人ホームへと向かった。

2016年に映画化されました。



植物図鑑
有川浩/幻冬舎文庫/2013

ある冬の日の晩、飲み会帰りのさやかは、マンションの前でイツキという1人の男性と出会う。お金に困っていたイツキと一緒に生活することになったさやかは、次第に彼を意識するようになり…。

2016年に映画化されました。

◆季節が移り変わり、最近は蒸し暑い日と雨の日が毎日のように続いていますね。過ごしにくい気候ではありますが、みなさんいかがおすごしですか？5月は長いゴールデンウィークの影響で休み明けが憂鬱だった方や、毎日の疲れから五月病になられていた方も多かったことと思います。そんな5月を乗り越えて、あっという間にもう7月。夏休みが目前に迫ってきました。時間のある方は、そろそろ読書感想文の本を読み始めるのもいいかもしれませんね。(地域福祉学科2年 末弘) ◆梅雨の時期になりましたね。雨でお出かけできないときには、家で読書などいかがでしょうか？ちなみに私のお勧めはホラー小説です。これを機に本と友達になりましょう！(地域福祉学科2年 小林) ◆今回は映像化された作品の特集ということで、皆さんがなじみやすい小説が紹介されています。先日、宇都宮の大谷石地下採掘場跡に行きました。京極夏彦の「魍魎の匣」の映画化の時、『匣』の中をここで撮影したとのことで、謎の『巨大な立方体』を表現する文章の一節が思い出されました。ドラマや映画をきっかけにして、原作を読んでみることをお勧めします。様々な表現や美しい文章にふれる機会になればいいですね。(地域福祉学科 松本百合美先生)